

## is it or isn't it easy being green?

### エコライフの現実性 —無理な事、簡単な事—

Crean Slate No 63 Winter 2006 より

翻訳 CAT 普及協会 内村 雅生

サステナブル、或いはエコロジカル、或いはロハス、或いは「グリーン」な生活を送る事は、実際問題として容易なのだろうか。「グリーン」な生活の教祖的存在でありオルタナティブテクノロジーの造語者である CAT の Peter Harper、BBC ニュースナイトで「道義の人」として知られる Justin Rowlett、CAT の出版業務に携わりロンドンからウェールズに敢えて移住した Caroline Oakley による鼎談が行われた。

異常気象を始めとする地球環境破壊の進行を防ぎ止める事の必要性は、大方の同意する所だが、その為の「グリーン」と言う用語については人によって捉え方が異なる。普通の人々はどの様に「グリーン」を実践すれば良いのだろうか。「できる事から」とは良く言うが、ある人にとって容易な事が他の人にとっても同じとは限らない。誰もが近郊から田舎に移住できるわけでもない。そこで、「クリーンスレート」では、それぞれ立場の違う三人に、日常生活の中でサステナブルの実現の為にどの様な努力をしているか尋ねた。

30年以上に渡って英国の環境運動の最前線で活躍して来た Peter Harper は、ウェールズの小さな都市マカンレス（マハカンヘス）に住み、この 20 年に渡って四人家族の住居の供給と排出の関係を測定して来た。

Justin Rowlett は BBC ニュースナイトの記者であり、「倫理の人」として任じられて来た。この事から、彼は一年に渡って彼と家族の生活が地球環境に及ぼす影響をあらゆる視点から見つめ、地球環境に対して可能な限り正しい生活を送る事を試みて来た。彼はロンドンのテラスハウスで妻と三人の娘と共に暮らしている。

Caroline Oakley は、ロンドンで 16 年間、出版業に従事した後、CAT で働く為にウェールズに移住した。彼女は独身で、今は建築中の住宅用地にトレーラーハウス二台を置いて居住している。Caroline は環境問題を良く心得ているが、自分自身を環境運動家とまでは思っていない。理論を突き詰めるよりは日々実践を重ねると言った立場である。

三人はそれぞれ環境問題の解決に寄与しているわけだが、どの様な事が困難で、どの様な事なら簡単なのだろうか。三人共同じ状況なのか、或いは立場によって異なるのだろうか。また、居住地が市街か否か、そして、家族の有無は関係するのだろうか。

Caroline は市街と田舎の双方に居住した経験があるが、一つ気になっているのは、温暖化について問

題意識を持つ人がいない事と言う。

「問題だなと思った事は、例えば交通手段です。私は田舎に住んでいて、勤め先は遠いんです。実際、家の辺り（Snowdonia 山地の南辺）では公共交通の便は貧弱で、地元の交通業者のエリア外に行こうとすれば費用も馬鹿にはならないんです。車無しで通勤しようとするれば、自転車で3マイル（4.8キロ）、それから列車で30分、更に自転車で3マイルです。おまけに夏場は混んでるから列車の自転車持込券が売り切れのときが多いんです。バスを乗り継いで行こうとすれば、11時に出勤して1時15分には退勤しなくてはなりません。列車とバスを乗り継ぐとするなら、待ち時間だけで1時間、正味の移動時間と合わせて片道2時間以上かかります。毎日往復で4時間以上の通勤時間と言うのは、明らかに時間の浪費です。そうしたわけで、車を使わざるを得ず、せめて懐の許す限りバイオ燃料を使っています。但し、バイオ燃料を使用すると、自動車メーカーの保証が効きません。

私は列車そのものは嫌いじゃありません。でも、単線のローカル線の実情は、鉄道会社に忍耐力を試されている様なものです。去年の休暇にスイスのベルンへとても快適な旅をして、その足でフランスのナントへ仕事の為に行きました。大陸に入ってから全ての列車が完璧に接続して走ってくれました。でも、英国内でのユーロスターの駅までの往復は別の話です。ウェールズとの間を何度も行き来していますが、乗換駅のバーミンガム駅の隅の方で長々と待ち続けたものです。或いは、バーミンガムで待っている間にウォルバハンプトンで乗換列車が折り返してしまう事もあります。ウェールズに帰る時、乗換列車が遅れるとバーミンガムの先のウォルバハンプトンで折り返しちゃうんです。もう少しウェールズ寄りのシュロウズバリから延々タクシーで帰った事もあります<sup>1</sup>。列車が大幅に遅れて最終列車の接続に間に合わなくて、鉄道会社が払ってくれたんですけどね。地球温暖化問題の解決策の一つとして鉄道を始めとする公共輸送機関の充実が重要だと信じる人から見たら、私の行動は矛盾しているでしょうね。

そもそも、バーミンガムからスコットランドとか、リバプールからバルセロナへ飛行機で行くのに比べて、なぜ鉄道運賃の方が高いのか、私は納得が行きません。自動車も列車もバスも飛行機も化石燃料で動くのだから、税率も同じであるべきではないかしら。」

Caroline が抱く不満は、家族を持つ他の二人にとってはあまり感じる事のないものかも知れない。Justin は言う。

「ニュースナイトで、制作者達から『倫理の人』に指名されて以来、最も驚いたのは航空機が如何に環境を汚染しているかと言う事です。番組を担当するほんの数週間前、私は週末に家族を連れてカナリア諸島に行ったりしていたものです。そのちょっとした週末旅行の為に排出した二酸化炭素の量(carbon footprint)は、家の年間の暖房の為に二酸化炭素排出量、或いは自家用車の二酸化炭素排出量と同じだったんですね。

海の環境の変化が気候変動を招いている事は確かです。今や大半の人々が地球温暖化の事実を認めていると言って良いでしょう。でも、周りを眺めても、誰も具体的な対策行動を執ってはいないんです

1 鉄道駅の位置関係は、ロンドン←(120Km)→バーミンガム←(20Km)→ウォルバハンプトン←(50Km)→シュロウズバリー(150Km)→マカンレス（マハカンヘス）の順（概算直線距離）。但し、文面から、Caroline Oakley の自宅はCATの最寄りであるマカンレスから更に数十キロ離れている。通常、ロンドンから急行に乗り、バーミンガムでローカル列車に乗り換えるが、ローカル列車は、遅延が発生するとバーミンガムまで来ずにウォルバハンプトンでマカンレス方面に折り返してしまう事がある線区を問わず遅延は日常茶飯事で、ロンドン、バーミンガム間（幹線）の特急・急行が遅延する事も珍しくない。シュロウズバリもターミナル駅で、時間帯によっては列車が同駅止まりとなる。

よね。例えば、私の友人の場合、彼等は地球環境について十分な情報を持っているし、問題意識も持っているし、航空機による大気汚染の酷さも知っているわけです。しかし、週末にプラハで観光を楽しんだり、カリブ海へ日光浴に行ったりするわけです、安い運賃で。

私もそうなんです、ロンドンの自動車保有率は最低です。自動車の保有をやめた事で、私の家族も5分の2のロンドン人の仲間入りです。地方に行くと、自動車を持たない人の割合は10分の1ですね。地方で、人々が車に頼らざるを得ない事情は容易に理解できます。地方では、徒歩13分以内の所に一時間に一本以上運転している路線バスの停留所がある世帯が51パーセントだそうです。それが都市部では96パーセントです。

憎むべきは車の容易さと速さ、と言った所でしょうか。我々は車さえあれば殆どの事ができます。それだけに車を持たない事は容易ではないし、時間の効率の点でも問題です。

一方、何とも落胆させられる統計ですが、都市部の全ての人が自動車の所有をやめたとしても、全英国の二酸化炭素排出量の2.5パーセントが減るだけです。年間で僅か2.5パーセントです。英国の全ての人が自家用車の保有をやめた場合の二酸化炭素排出量は、1200万トン、8パーセントが減少します。」

緑の伝道者として知られる Peter Harper はどのような問題意識を持っているのだろうか。

「私が住んでいるのは町中で、公共交通に恵まれており、自家用車を持たなくても生活できて、家計の節約ができています。旅行の内の20パーセントは車を使わざるを得ませんが、その場合は地域の自動車共有を利用しています。去年は1700マイル（2735キロ）走りました。二酸化炭素排出量は350キロの筈でしたが、バイオ燃料を半分使ったお陰で200キロで済みました。これは、私の公共交通利用による排出量と同じです。実は、私が二酸化炭素排出に敏感である事を知らない友人の車に乗せてもらったりする分はちょっとズルをしているんですが、なかなか良い結果だと思っています。」

しかし、彼は続ける。

「私は仕事の為に随分旅をしたものだけど、最早、放浪癖も綺麗さっぱり洗い流しました。最近、スウェーデンへ講演の為に飛行機で行って来ましたが、招いてくれたのが古くからの友人で特別な催事であったからで、そうでなければ行きませんでした。」

Peter が指摘する様に、人の移動に伴う汚染は本人の事情のみによるものではない。例えば、仕事それがそれである。そうした事情による旅行は、個人の環境汚染の収支に適ったものだろうか。

「これは最も痛い所なのだけど、私は、講義や講演の為に毎年日本を訪れているんです。これは偽善なのかな。私はCATを代表して訪日しているわけで、旅行に伴って生じる汚染も、より広い意味で汚染を抑制する為のCATの活動に必要な計画的なエネルギー消費とも言えるかも知れません。海老で鯛を釣ると言うよりは鯛で鯖を釣る程度のものかも知れませんが、これが全く無駄だと言うのであれば、CATも直ちに店仕舞いするべきでしょう。そうすれば、CATに車でやって来る人達の分の環境汚染が減る事になります。因みに、私の子供達はこの問題を哲学的に既に解決している様です。何やら辛辣な表現でね。」

Justin が再び語る。

「ニュースナイトで、私をジャマイカに行かせる計画をしました。倫理の人と呼ばれている人物がそのような事をすれば、環境問題について情報を持ち解決の必要性を感じている人々から、きっと批判が集まるだろうと考えたわけです。そして、批判が集まったなら、Luch Potter が言う様に、『批判した人々は自

分の行楽旅行の際にもう一度同じ事を思い起こすに違いない』と言うわけです。」

Caroline が答える。

「私も似た様な経験があります。日本とアイスランドに環境関連の本を売りに行く仕事でした。その本によって環境問題に関する啓発ができるわけですが、本が何部売れるか、そして読んだ人の内のどれ程が実際に生活様式を改善するのか。それは、私が田舎から都会に出て飛行機に乗って行く事に見合うのか、ですね。」

我々の食料供給も地球環境と言う視点で重要な問題である。本来森であった場所で栽培される大豆からオランウータンの住処を奪って栽培され加工される椰子油まで。我々の取引相手たる生産者はどうすべきなのだろうか。Peter から。

「私は自家用の果物と野菜の半分を自分で育てていますが、残念ながら、家計の2パーセント程にしかならず、自給自足には程遠いものです。それに、私は40年以上ベジタリアンなのだけど、乳製品は普通に摂っていて、もう中毒みたいなものです。だけど、チーズ抜きで食料を自給している友人がいて、本当に尊敬しています。」

Justin Rowlett のブログは多くの読者を擁しているが、中でも彼の食料に対する記事に注目が集まっている。

「私は肉も食べていますが、多くの読者は肉と乳製品の拒絶が唯一のダイエットだと思い込んでいるんですね。読者の皆さんは、肉食による環境負荷(carbon footprint)も問題にしています。極端に細かい事に拘るつもりはありませんが、私は、畜産品や酪農産物を忌避する事によって、豆類や雑穀の生産に伴う環境負荷が相殺できる、と言う理屈には納得できないんです。

フードマイル(food mile)、即ち、食料が生産されてから食卓に届くまでの移動距離の問題については色々な事が言われています。結局、一番正しいのは、自宅の近所の木に成った実だけを食べる事で、それ以上に正しい事があるのでしょうか。これに対する読者の意見は概ね肯定的です。それで、読者の皆さんは、各々の心に残る思い出の風景、それも実のなる木がある思い出の風景を思い描いている様子なんです。私の場合は、二週間程前に娘と散歩したノースロンドンの並木の中のアーモンドの木です。実はまだ枝に付いていて、殻を割るのに一苦労しました。それをバターで揚げてガーリックを振ってバタートーストに載せると、本当にもう最高でした。<sup>2</sup>」

Caroline が言う。

「私も食べ続けている物もあれば、購入をやめた物も沢山あります。私が住んでいるのは生産地ですから、牛や羊の肉は豊富です。鶏は有機飼養の業者が少ないらしいのと、魚も旬の物が豊富ですがアイリッシュ海の放射能汚染などが心配ですね。野菜は、夏は沢山ありますが、冬は温室を使わない限り根菜だけです。でも、私の家は Snowdonia 国立公園の中なので、規制があって温室を造れないんですよ。主立った作物としては、穀類や米の生産には適さない土地なので、冷たい粘土質でも育つジャガ芋でバラエティを出せると言うんです。保管庫も必要ですね。果物や乳製品は好きで良く食べますが、実はスーパーマーケットの輸送車が排気ガスもくもく運んで来た物です。有機栽培の物に拘ると、どうしても

2 アーモンドの木の話の部分はほぼ直訳だが、解釈について諸兄姉の御指導を賜れば幸いである。筆者としては、生命を維持するには到底足りない量の食物を、むしろ娯楽としてバターで調理すると述べる事が一種の皮肉になっているものと思われる。

海外からの物にならざる得なくて、フードマイルの点では問題ですが、実際に手頃な価格なんです…。実践したい事と実践できる事と言うのは一致しないものですね。」

食料の様な生産活動とは別の問題について訊いてみた。我々の生きる営みそのものをサステナブルにする為の環境建築や再生可能エネルギー技術についてである。この分野には、できる事なら 21 世紀初頭の現在の水準を維持したいものの、化石燃料の枯渇後、或いは気温が 5°C も上昇した後には諦めざるを得ない見込みの事柄がある。我々は、現在の水準を維持できるだろうか。

Caroline はこう言った。

「エコハウスに住めるものなら住んで今の生活水準を保ちたいです。でも、新築も古い家のリニューアルも、金銭面で無理です。何か最低限実行すべき事とあってあるんでしょうか。次善の策として、やはり窓は二重ガラスよりアルゴン充填の三重ガラスが良いんでしょうか。普通の窓ガラスにプチプチビニールシートを貼り付けるんじゃ駄目ですか。誰もが自分の家を建てられるわけではないし、家を建てれば多くの材料を得る為に環境負荷が発生します。古い家を在来の技術で改装するだけでも、暖房による二酸化炭素排出はかなり低減できる思うんですけどね。」

Peter のやり方はこうである。

「差し障りの無い範囲で可能な限り暖房温度を下げるのは意外に簡単に慣れるものです、古い家では特にね。温度を 16°C に設定して保温下着を用いるのが丁度良いみたいです。暖房ボイラーにはタイマーを付けて、誰かが終日在宅する場合は別として、通常は朝と夕方だけ運転しています。各部屋の放熱器には調節バルブが付いていて完全に遮断する事もできます。来客用の寝室は通常はオフになっていて、お客さんが来た時だけ少し甘めにバルブを開いています。こんな努力で、家の暖房費は通常皆さんが想像する額の半分程です。それでも、年間 9000kWh を消費していて、二酸化炭素排出量は 1.5 トンに及びます。」

Justin は、倫理の人と呼ばれた最初の頃、自分の家のエネルギー消費を観察した経験があるそうである。

「当時厚生政務官だった Yvette Cooper さんが、私の家を新しい省エネ診断のテストケースとして選んだんです。結果は D で、平均よりちょっと悪い位でした。しかし、建物の古さの割には良い結果で、少し手を加えれば C になるかも知れない、との事でした。その中で一番大きな点は、空洞壁に詰め物をする事で、それで年間 56 ポンドが浮くそうです。空洞壁をそのままにしていたのは、詰め物をしてはいけなと言われていたから、それだけです。もう一つは、暖房用のボイラーにタイマーを設置する事と、放熱器に調温バルブを取り付ける事で、これで年間 21 ポンド節約できるそうです。

私は友人で大工の Laurence に来て貰い、見積りを頼みました。しかし、彼はバルブ交換の効果に懐疑的でした。彼曰く、私がやろうとしている事は、十分に良く働いているバルブを棄てて交換する事だそうです。確かに、調温バルブによって二酸化炭素排出量は若干減少する筈ですが、それ自体の製造の為に二酸化炭素排出を伴っている、と言うわけで、私は目から鱗が落ちる思いをしました。これは全ての人から賛同を得られるとは限りません。この様子を番組にして同僚達に見せた所、Neal という友人が、バ

ルブを全て交換して良い成果を得ているとの事でした。家の各部屋の調温が容易になり、省エネルギー効果も大きいそうです。」

さて、これらの鼎談から結論めいたものは得られるだろうか。或いは、ここで簡単とされた事は本当に全て実行可能だろうか。Peter と Justin の様に、公共交通の便に恵まれ、自動車共有制度が普及している地域に住んでいるのなら、自動車保有は止めてしまうのが妥当な選択と言えよう。しかし、彼等二人は市街地に住んでいるのであって、Caroline には無理な相談である。食料問題では一致した方向性らしきものが見えそうである。Peter は肉食をせず、Caroline は地元産の肉や魚は受け入れるが輸入物の果物や野菜は拒絶し、Justin はクリスマスに放し飼いで育てた七面鳥を試すそうである。

Caroline が容易と答えたのは次のものであった。

- 倫理的な金融 — もっと話したかったが、容易に改革できる事は沢山ある。様々な選択肢があるので決して機会を見逃さないで欲しい。少なくとも投資ゲームは避けるべき。
- 長距離旅行 — 単純に控えるべき。きっと他の選択肢はあるし、時間の使い方金の使い方を再考すべき。安ければ良いと言うものではない。
- 廃棄物抑制 — レジ袋や過剰包装ははっきりと断る。電灯はこまめに消す。寒ければ厚着する。衣類、靴、瓶、缶は再利用或いは再生する。堆肥にできるものは全て堆肥にする。自転車共有、インターネットオークション、古物商を活用する。
- グリーン電力 — 今こそ電力会社を変更する好機。料金も一般の契約と大差なくなって来ている。

Justin と彼の妻は大きな成果を幾つも挙げて来た。先ず洗濯に於ける無燐化を達成した。「洗濯の時にエコボールを使ってみたら、いつもの洗剤の時と変わらないよ。」との事である。これだけではない。「最近の赤ん坊のおむつは良く出来てるね。今年の夏は娘のエルザは竹材から出来たおむつばかり付けていたんだ。世間で言う程肌触りも悪くないよ。」

ノーカーデーの実施に対しては…。「スローを楽しむ為には下調べが必要だよ。日曜日には娘達を水泳に連れて行くんだけど、車なら往復で2時間、バスだと直通のが無いから4時間近くかかっちゃう。それで、歩いちゃおうと考えたんだ。エバとゾーラは花の香りがする度に立ち止まって大喜びだったよ。蜂みたいにね。帰りには紅茶とケーキを楽しんで来たんだ。最高の日曜日だったよ。」

Peter は業務上の旅行について、ある程度の改善を達成しているが、十分と言えるだろうか。彼は、暖房温度を下げたり、コンポストトイレに取り組むなど、多くの人が尻込みする様な事を実践して来た。読者諸兄は如何だろう、同じ事ができるだろうか。CAT のインターネットサーバー内の会員専用エリアは十分な容量を持っており、この記事の何倍もの量の議論が展開されている。諸兄の参加を期待したい

この翻訳文書に関する問い合わせ先：  
CAT 普及協会 infodesk@cat.or.jp